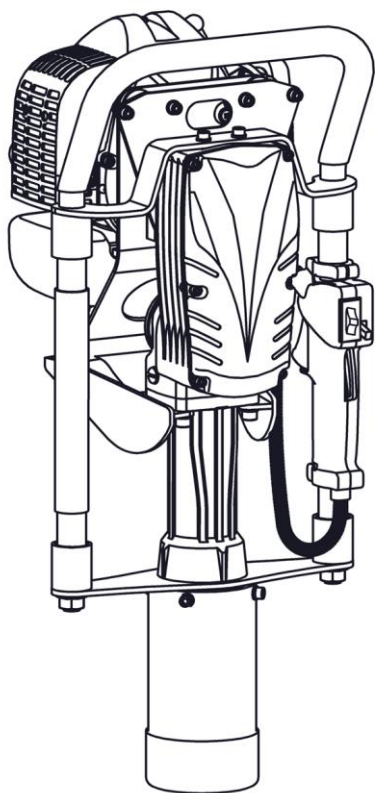


杭打機 取扱説明書



果樹園、ソーラーパネルなどの支柱や杭用

※ 本製品は果樹園、ソーラーパネルなどの支柱や杭用の杭打機です。それ以外の作業にお使いになる場合には、必ず弊社にお問合わせ頂き、使い方についてご確認ください。無理な使い方をすると故障、または破損する場合があります。

このたびはビーバー杭打機をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。


初めてお使い頂く方はもちろん、すでにご使用の経験をお持ちの方にも再認識の上でお役に立つものと考えております。この取扱説明書および別冊のエンジン取扱説明書も合わせて繰り返しお読み頂き、良くご理解頂いた上で、安全で効率の良い作業を始めてください。

ビーバー杭打機の常におこたらない品質改良のため、取扱説明書の中にお買い上げの製品と詳細において異なる場合があります。あらかじめご了承ください。お買い上げの製品またはこの取扱説明書の内容に関するご質問は、お買い上げの販売店または営業所までお問合わせください。




目 次

1	⚠ 危険・警告・注意の表示について	3
2	正しく安全にお使いいただくために	4
	・全般の注意事項	4
	・作業前の注意事項	5
	・作業時の注意事項	6
3	各部の名称	7
4	仕様	8
5	杭に合ったスリーブの取付け	9
6	使用する燃料について	10
7	給油の手順	11
8	エンジンの始動	12 ~ 13
9	エンジンの停止	13
10	杭打作業	13 ~ 14
11	点検・整備・清掃	15
	・シリンダケース、ギヤケース、ガイドパイプの点検	15
	・アンビルの点検	15
	・グリスの補充	16
	・エアクリーナの点検	17
	・点火プラグの点検	17
	・燃料タンクの点検	17
	・エンジン各部の清掃	18
	・エンジン部品の点検・整備	18
	・点検項目	19
	・長期保管時の手入れ	20

1 危険・警告・注意の表示について

本製品をご使用になる前に、この取扱説明書を読み、良く理解した上で正しく取扱ってください。安全で効率の良い作業をして頂くために、ぜひ守って頂きたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で「 警告サイン」として説明の都度取上げております。

■ 警告表示について

 危険	… 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。
 警告	… 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しています。
 注意	… 注意事項を守らないと、けがを負う恐れのあるものを示しています。
重要	… 注意事項を守らないと、機械の損傷や故障の恐れがあるものを示しています。
補足	… その他、使用上役立つ補足説明を示します。

2 正しく安全にお使いいただくために

全般の注意事項

警告

1. ご使用前に、この取扱説明書および別冊のエンジン取扱説明書をお読みにになり、製品機能と取扱い上の注意事項をよくご理解ください。
2. 本製品は果樹園、ソーラーパネルなどの支柱や杭用の杭打機です。それ以外の作業にお使いになる場合は、必ず弊社もしくは取扱い店にお問合わせ頂き、使い方についてご確認ください。確認のない場合は保証対象外になる場合があります。無理な使い方をされますと故障、または破損する場合があります。
3. 本製品は、運転中に電磁波が発生します。この電磁波はペースメーカーなどの電子医療機器の動作に影響する場合があります。ペースメーカーなど医療機器を装着している方は、本製品を使用する前に医師または医療機器メーカーに相談してください。
4. 本製品を地面に置く時は、燃料タンクキャップ、スイッチ部が地面に当たらないように置いてください。故障、または破損する場合があります。
5. 作業時の騒音による聴力障害予防のため、耳栓を必ず着用してください。
6. 作業時の振動緩和、やけど防止のため手袋を必ず着用してください。
7. エンジンを運転したまま、または停止後は、エンジン本体、マフラー、ギヤケース、シリンダケース、ガイドパイプ、その他の金属部などが高温になっていますので燃えやすい物の上に置かないでください。
8. 輸送時は、燃料漏れを避けるために、燃料タンクを空にしてください。
9. 異常な箇所が見つければ使用しないで、お買い上げの販売店または、営業所にお問い合わせください。
10. 本製品の改造や分解はしないでください。
11. スリーブの交換、グリスの補充時、点火プラグ、エンジンのエアクリーナの点検・整備以外では分解しないでください。故障、または破損する場合があります。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用方法と異なる場合は、メーカー保証の対象外になりますのでご注意ください。
12. 本製品を譲渡または貸与する際は、この取扱説明書は必ず添付してください。
13. この取扱説明書は必ず保管して、分からないことがあった場合など必要に応じてご参照ください。

作業前の注意事項

危険

1. 本製品のエンジンは引火しやすいガソリンを含む「混合ガソリン」を燃料としているため、次の事項をお守り頂かないと、火災の原因となります。
 - ① 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止し、くわえタバコなどまわりに火の気がないことを確認してから補給してください。
 - ② 燃料を補給後は、燃料タンクキャップを確実に締め込み、燃料漏れなどがないことを確認してください。
 - ③ 給油時に燃料がこぼれた場合は、エンジンをかける前に、機体に付着した燃料を完全にふき取ってください。付着したまま作業を行うと、マフラーの熱や、電気系統のスパークによる火災をおこし、やけどする恐れがあります。
 - ④ 給油後は、燃料容器を密閉し火の気がなく、日の当たらない涼しい場所に置いてください。
2. エンジンの排気ガス中には人体に有害な一酸化炭素が含まれています。屋内やトンネル、穴溝などの換気の悪い場所では本製品を使用しないでください。
3. 作業員以外の方が作業エリアにいないことを確認してから作業を開始してください。

警告

1. 作業前には必ずエンジンを停止した状態で、“点検・整備(15～17ページ)”の確認を行ってください。
2. エンジン停止後は、エンジン本体、マフラー、ギヤケース、シリンダケース、ガイドパイプ、その他の金属部などの高温部に素手で触れないでください。やけどする恐れがあります。
3. 作業を開始する前には、本機の割れやグリス漏れ・ネジ類のゆるみや破損・燃料漏れ・作動不良などがないことを確認してください。
4. 本製品は操作を誤ると不測の事故を招くことがあります。次のような場合は作業を行わないでください。
 - ① 疲労など体調の悪い時や、かぜ薬服用時、飲酒時での作業。
 - ② 風の強い日や降雨、雷など天候の悪い時。
 - ③ 夜間や濃霧など、周辺の状況判断がむずかしい時。
 - ④ 落石や雪崩の恐れがある所。
 - ⑤ 足元がすべりやすいなど、安定した操作姿勢の保持が困難な所。
 - ⑥ 高い所に登っての作業。
 - ⑦ 硬い土壌、コンクリート、アスファルト、石ころ混じりの土の所。
 - ⑧ 取扱説明書の内容が理解できない人や、子供には絶対使用させないでください。
5. 本製品をお使いになる際は、次のような用品を着用してください。

① 裾を絞った長袖の上着と長ズボン	⑤ 手袋
② ヘルメット	⑥ 安全靴
③ 防護メガネ、またはフェイスシールド	⑦ 耳栓
④ 防塵マスク(粉塵の多い所では着用してください)	

作業時の注意事項

警告

1. エンジン運転中は点火プラグやプラグコードに触れないでください。電気ショックを受ける恐れがあります。
2. エンジン運転中および作業終了後1時間はエンジン本体、マフラー、ギヤケース、シリンダケース、ガイドパイプ、その他の金属部などの高温部に素手で触れないでください。やけどする恐れがあります。
3. 本機は両手で左右のグリップを握って作業してください。グリップ以外の所を持つての作業はしないでください。また移動の際は、グリップかハンドルを持って移動してください。
4. 杭打ちの作業中以外は、スロットルボタンを押さないでください。空打ちになり、本機が故障、または破損する恐れがあります。
5. 必ず、本機のガイドパイプに杭を刺し込んでからスロットルボタンを押してください。
6. 杭打ち時はグリップを握り、本機が跳ね上がらない程度に下方方向に押さえつけてください。金属部を押さえるとやけどの恐れがあります。強く下方方向に押さえると本製品が故障、または破損する恐れがあります。
7. 作業中エンジン音が低くなり杭を打つ力が弱くなったら、本機内のグリスが少なくなったと思われます。ただちにエンジンを停止して、“グリスの補充(16ページ)”に基づいてグリスの補充を行ってください。
8. 作業中打撃音がしなくなり、エンジン音のみとなった場合、本機内のグリスが消耗したか、故障したものと思われます。ただちにエンジンを停止して、お買い上げの販売店または、営業所にお問合わせの上、修理してください。
9. 作業中に異常音・異常振動・杭を打たなくなったら、ただちにエンジンを停止し本製品の点検を行ってください。
10. 作業を中断する時や作業終了後はエンジンを停止してください。

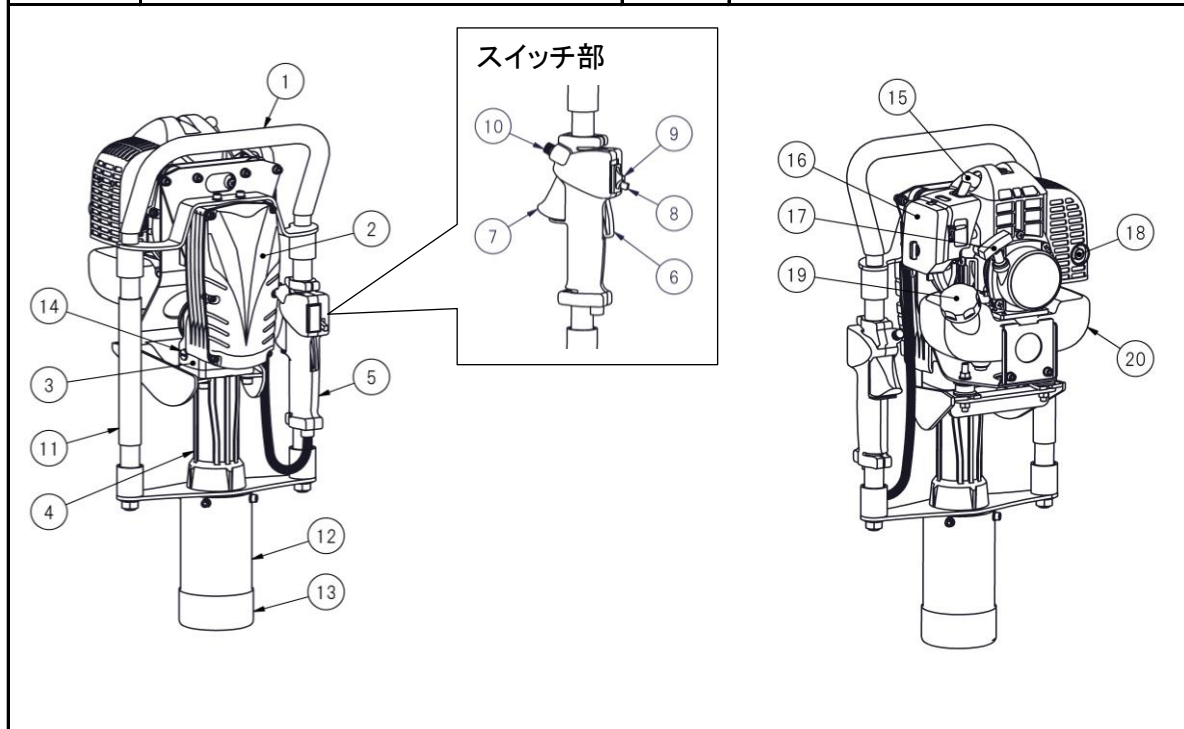
注意

1. 新品からの最初の10時間は中速で運転してください。高速で使用すると、本製品の寿命に影響することがあります。
2. 杭のサイズに合ったスリーブをご使用ください。サイズの合わないスリーブを使用すると、本製品が故障、または破損する恐れがあります。
3. 作業中、本機の打撃部を上下して杭をたたかないでください。本製品が故障、または破損する恐れがあります。
4. 作業は30分を限度とし、10～20分の休憩を取り、決して無理な作業はしないでください。

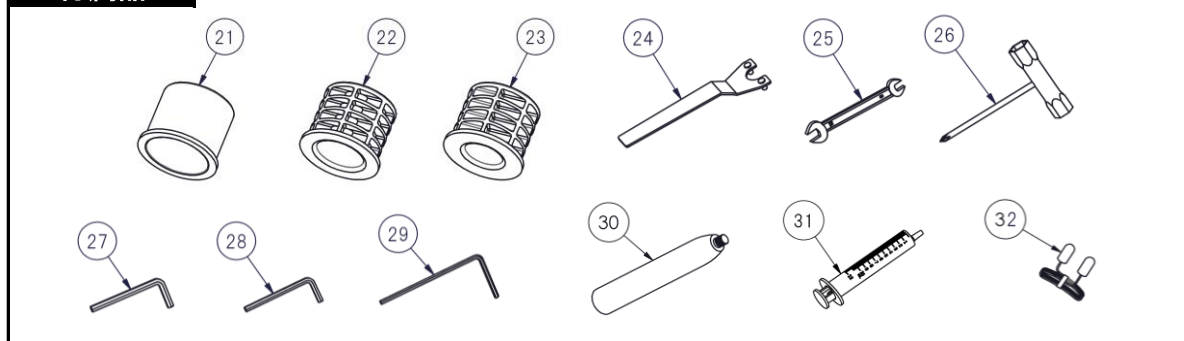
3 各部の名称

■ 主要部分の名前

1	ハンドル	17	リコイルスターター
2	ギヤカバー	18	マフラー
3	ギヤケース	19	燃料タンクキャップ
4	シリンダケース	20	燃料タンク
5	スイッチ付グリップ	21	73mmスリーブ
6	ロックスイッチ	22	55mmスリーブ
7	スロットルボタン	23	45mmスリーブ
8	連続スイッチ	24	グリスキャップ用レンチ
9	ストップスイッチ	25	両口スパナ 8 x 10
10	速度調整ツマミ	26	プラグレンチ
11	グリップ	27	六角棒レンチ 6mm
12	ガイドパイプ	28	六角棒レンチ 5mm
13	リテーナ	29	六角棒レンチ 4mm
14	グリスプラグ	30	補充用グリス
15	点火プラグ	31	グリス補充器
16	エアクリーナ	32	耳栓



付属品



4 仕様

型 式	RP-051	
本 体 寸 法	680(高さ) x 310(幅) x 275(奥行)	
本 体 重 量	17kg	
使 用 場 所	果樹園、ソーラーパネルなどの支柱や杭用	
使用できる杭	材質	木・単管・樹脂・C型・Y型鋼など
	外径	78mm以下
グリス	種 類	リチコン系(エポネックスSR No.2)
	補充時間	約10時間毎に、約10g補充
エ ン ジ ン 部	型 式	G43S (別冊のエンジンの取扱説明書では、G4LS-D)
	形 式	空冷2サイクルピストンバルブ式ガソリンエンジン
	排 気 量	41.5cc
	点 火 方 式	無接点マグネット式
	点 火 プ ラ グ	RCJ6Y
	キ ャ ブ レ タ	ダイヤフラムロータリバルブ式
	使 用 燃 料	2サイクルオイル混合ガソリン 2サイクルオイル(JASO FC級 又は FD級)・・・50:1 (ガソリン1Lに対しオイル20mL)
	燃 料 タ ン ク 容 量	0.74L
	エ ア ク リ ー ナ	乾式
	始 動 方 式	リコイルスタータ式
停 止 方 式	点火回路一次短絡式(押しボタン式)	
キャリーケースの寸法	845mm(高さ) x 440mm(幅) x 325mm(奥行)	

5 杭に合ったスリーブの取付け

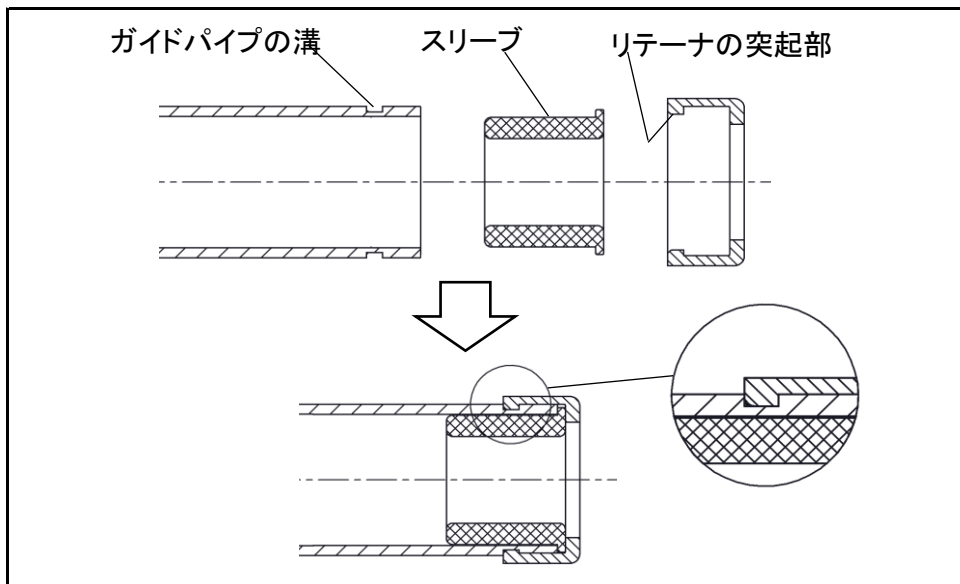
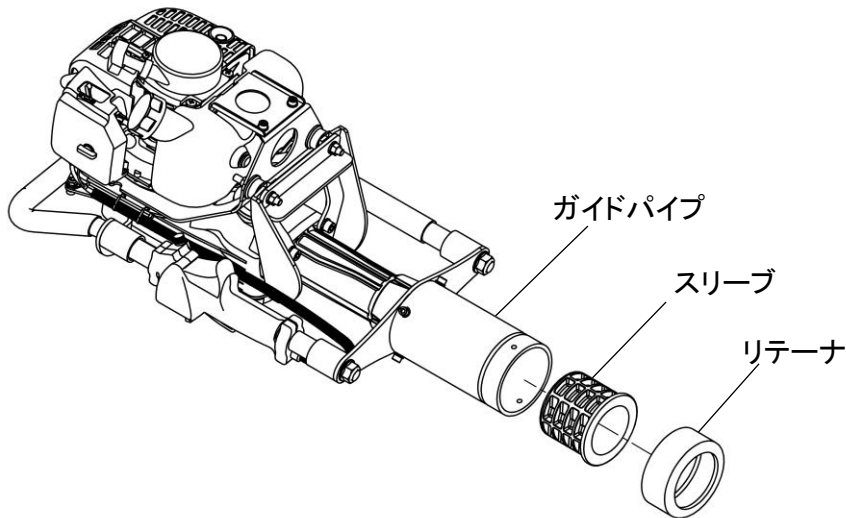
- ① ガイドパイプからリテーナを取外す。
- ② 杭の直径に合わせてスリーブを選択します。

杭の直径	スリーブ
78～68mm	スリーブ取付けない
68～50mm	73mmスリーブ
50～40mm	55mmスリーブ
40mm以下	45mmスリーブ

- ③ ガイドパイプに、スリーブを入れて、リテーナを取付けます。
(杭の直径が78～68mmの場合は、スリーブなしで、リテーナを取付けてください。)
リテーナの突起部がガイドパイプの溝へ完全に入るように取付けてください。

重要

- リテーナの突起部がガイドパイプの溝へ完全に入っていないと作業中にリテーナが外れる恐れがあります。



6 使用する燃料について

危険

- 燃料は非常に引火しやすいため取扱いを誤ると火災事故の原因となります。また、気化した燃料は爆発して死傷事故を起こす恐れがあります。
- 燃料の混合時は必ず火気を遠ざけ、タバコは吸わないでください。
- 燃料の混合作業は屋外で行ってください。
- 本機や燃料容器を、たき火やバーナーなどの火気の近くに放置しないでください。

重要

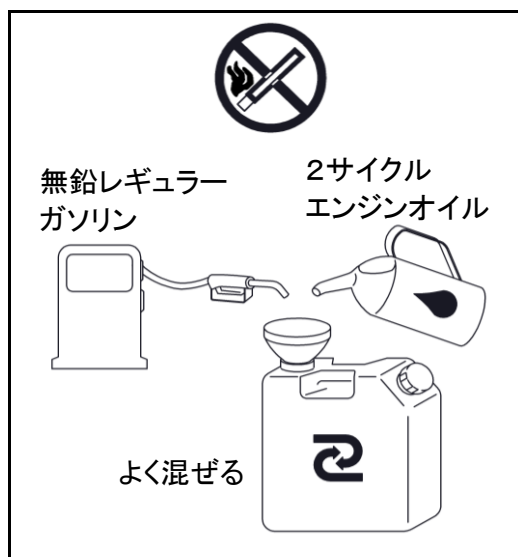
- オイルが混合されていないガソリン(生ガソリン)を使うとエンジンが焼き付きます。給油時は燃料が正しいか確かめてください。
- 燃料は紫外線や高温に長時間さらされると変質劣化し、始動不良や出力不足などの原因になります。混合した燃料は、30日以内を目安に使い切るようにしてください。
- 水の混入した燃料を使うと、キャブレタやエンジンの内部が腐食します。本機や燃料容器に水がかからないようにしてください。
- 4サイクルエンジン用オイルや水冷2サイクルエンジン用オイルは使わないでください。点火プラグ汚損やピストンリング固着、マフラーづまりなどを起こしやすくなります。

■ 使用燃料

- 燃料は、自動車無鉛ガソリンと空冷2サイクルエンジン用オイルを下記割合で混合容器に入れ、容器を振ってよく混ぜ合わせたものを使用してください。

【混合比】

2サイクルオイル (JASO FC級 又は FD級)
.....50:1
(ガソリン1Lに対しオイル20mL)



7 給油の手順

危険

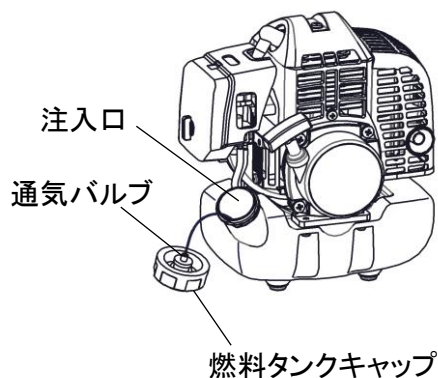
- 燃料タンクへの給油は屋外の平坦な場所で行ってください。給油時は火気を遠ざけタバコは消してください。
- 作業の途中で給油する場合は、必ずエンジンを停止し、冷えてから行ってください。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。
- 給油時に燃料がこぼれた場合は、エンジンを始動する前に、付着した燃料を布などで完全にふき取ってください。

重要

- 給油時は、燃料を取りちがえないようにしてください。必ず、2サイクル専用オイル混合ガソリンを給油してください。
- 給油は燃料タンク内部に少し空間を残してください。入れすぎると、通気バルブから燃料が漏れる恐れがあります。

■ 給油の手順

- ① 本機を屋外の平坦な場所に置き、安定させてください。
- ② 燃料タンクキャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部の気圧差を取除いてください。
- ③ 燃料タンクキャップを外し、注入口から少しずつ給油してください。
- ④ 給油が終わったら燃料タンクキャップを確実に締め付けて、燃料漏れのないことを確認してください。



8 エンジンの始動

危険

- 燃料給油後エンジンを始動する場合は、本機を給油した場所から離れた場所へ移動してから始動してください。給油した場所で始動すると引火による火災の恐れがあります。
- 室内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。人体に有害な一酸化炭素中毒の恐れがあります。

警告

- 始動前に機体各部を点検し、ネジ部のゆるみや燃料漏れなどの異常がないことを確かめてください。
- 始動時は機体を地面に置いて保持してください。
- 運転中およびエンジン停止直後はエンジン本体、マフラー、ギヤケース、シリンダケース、ガイドパイプ、その他の金属部などの高温部に素手で触れないでください。やけどの恐れがあります。
- 運転中は点火プラグやプラグコードに触れないでください。感電によるショックを受けることがあります。

■ エンジンの始動手順

- ① 燃料を燃料タンクに入れ、燃料タンクキャップを確実に締めてください。
- ② キャブレタ下にある始動ポンプを数回押し、オーバーフローパイプ(黄色)に燃料が流れるのを確認したら押すのをやめてください。
- ③ キャブレタ横のチョークレバーを”閉”の位置にセットしてください。

注意

- チョークレバーが”開”の位置では始動しません。
- ④ 機体をしっかり保持しリコイルスタータを軽く引いてください。

重要

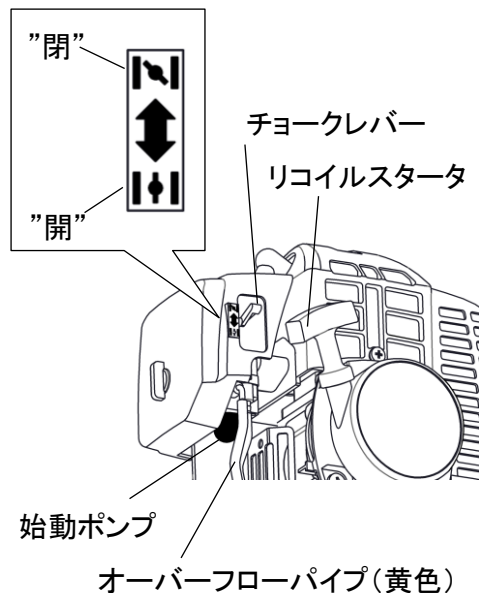
- リコイルスタータのロープを一気に最後まで引ききったり、引張った状態から手を離さないでください。
- ⑤ エンジンが始動したらチョークレバーを徐々に開き、スロットルボタンを押し、4～5分暖機運転をしてください。エンジン音が高くなったら、暖機運転を終了してください。

重要

- エンジン回転数はあらかじめ調整しています。絶対にスロットル調整はしないでください。
- エンジンの回転不良になった場合は、お買い上げの販売店または、営業所にスロットル調整を依頼してください。

補足

- エンジン停止直後の再始動には、始動ポンプを押さずにチョークレバーを”開”にし、リコイルスタータを引いてください。



9 エンジンの停止

警告

- 作業時に機体の異常を感じたら、直ちにエンジンの停止操作をしてください。
- 感電ショックを受けないよう、エンジンが止まるまでは点火プラグやプラグコードに触れないでください。
- エンジン停止直後はエンジン本体、マフラー、ギヤケース、シリンダケース、ガイドパイプ、その他の金属部などの高温部に素手で触れないでください。やけどの恐れがあります。

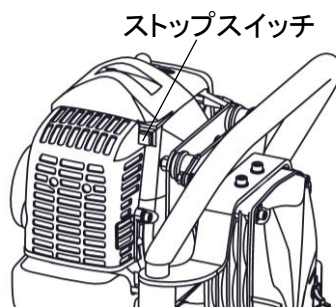
■ エンジンの停止手順

- ① スロットルボタンを完全に戻してください。
- ② スイッチのストップスイッチを”STOP”にして、エンジンを停止させるか、または、エンジンのストップスイッチをエンジンが完全に停止するまで押し続けて、エンジンを停止させてください。



重要

- スロットルボタンを押したままスイッチを切るとエンジンに無理がかかりますので、緊急時以外はスロットルボタンを戻してから停止操作をしてください。



10 杭打作業

警告

- 作業を始める前に、必ず、“正しく安全にお使いいただくために(4～6ページ)”の事項を守ってください。
- 1人で作業を行うと、杭が安定せず危険です。打込む杭を支える作業者と、本機を操作する作業者の2人で作業を行ってください。打込む杭が安定すれば、杭を支えている作業者は、杭から手を離して作業場所から離れてください。

補足

- 作業中にガイドパイプ内から少量のグリスが漏れる場合があります。本機の異常ではありません通常の作業を続けてください。

重要

- 杭はガイドパイプの中心位置にくるようにしてください。杭に打撃力を十分に伝えることが出来ません。中心位置が大幅にずれた状態で作業すると、故障の原因になります。
- アンビルが上下しなくなり杭を打たなくなった場合は、本機を上下しアンビルを杭に軽く2～3回打ちつけてください。
- 上記の処置を行っても杭を打たない時はガイドパイプを外し点検してください。アンビルが破損している場合は交換してください。固くて動かない場合は、お買い上げの販売店または営業所に修理を依頼してください。

■ 作業手順

- ① 本機のスリーブが、打込む杭のサイズに合っているか確認してください。
”杭に合ったスリーブの取付け(9ページ)”参照。
- ② エンジンを始動させスロットルボタンをいっぱいまで押してエンジンを全開状態にして、4～5分暖気運転をしてください。エンジン音が高くなったら暖気運転を終了してください。
- ③ 作業は、打込む杭を支える作業者と、本機を操作する作業者の2人で作業を行ってください。
- ④ 1人が杭を打込む位置で杭を支え、もう1人は、スロットルボタンを放した状態で、本機を杭の所まで移動し、杭に本機のガイドパイプを刺し込んでください。

重要

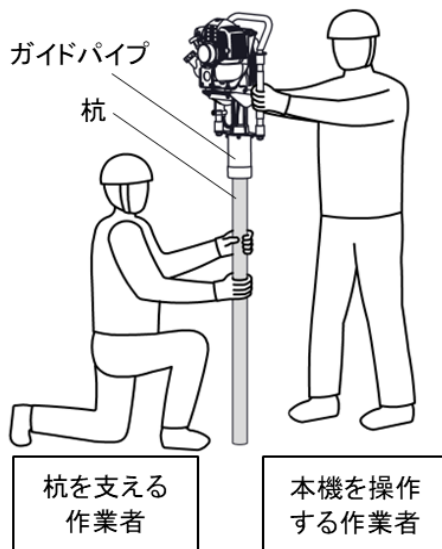
- 杭はガイドパイプの中心位置にくるようにしてください。杭に打撃力を十分に伝えることができません。
- ⑤ スロットルボタンをいっぱいまで押して、エンジンを全開状態にしてください。
 - ⑥ 杭を打ち始めると、本機が跳ね上がりますので、跳ね上がらない程度に下方方向に押さえつけてください。
 - ⑦ 打込む杭が安定すれば、杭を支えている作業者は、杭から手を離して作業場所から離れてください。

重要

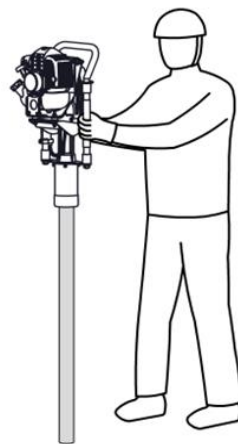
- 下方方向に強く押さえつけると本機の故障、破損の恐れがあります。
- ⑧ 杭を打ち終わったらスロットルボタンを放し、アイドリング状態にし、杭から本機を外してください。

重要

- 打ち込み時5秒～10秒経過しても杭が入らない場合は打ち込み場所をずらしてください。
- ⑨ 杭打作業が終了しましたら、スイッチのストップスイッチを”STOP”にして、エンジンを停止させるか、または、エンジンのストップスイッチをエンジンが完全に停止するまで押し続けて、エンジンを停止させてください。



打込む杭が安定すれば、杭を支えている作業者は、作業場所から離れてください。



11 点検・整備・清掃

警告

- 点検整備は必ずエンジンを停止してから行ってください。エンジン停止直後はエンジン本体、マフラー、ギヤケース、シリンダケース、ガイドパイプ、その他の金属部などの高温部に素手で触れないでください。やけどの恐れがありますので、本機、エンジンが冷えた状態で点検整備を行ってください。
- 本製品の改造や分解はしないでください。
- 点検整備は作業前および作業終了の都度行ってください。
- エンジンの点検・整備については、別冊のエンジンの取扱説明書を必ずご確認ください。

■ シリンダケース、ギヤケース、ガイドパイプの点検

- ① ボルトのゆるみや破損がないか確認してください。ゆるみがあれば締めてください。ボルトが破損している場合は交換してください。

重要

- ボルトのゆるみや破損した状態で作業を行うと、本機が破損します。
- ② グリス漏れがないか確認してください。グリス漏れがあれば、“グリスの補充(16ページ)”に基づいてグリスの補充を行ってください。

重要

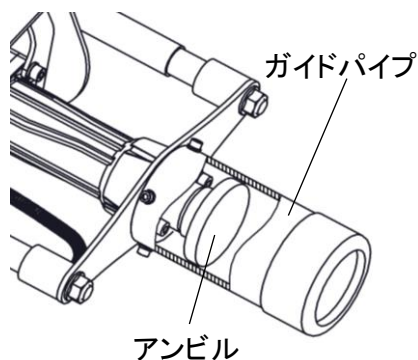
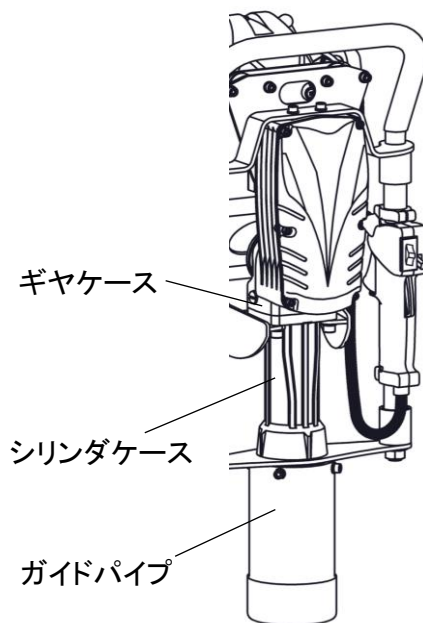
- グリスが漏れた状態で使用しますと、グリス不足になり打撃力が弱まります。また、故障の原因にもなります。
 - ボルトを締めてもグリスが漏れる場合は、お買い上げの販売店または、営業所に修理を依頼してください。
- ③ シリンダケース、ギヤケース、ガイドパイプに割れや破損がないか確認してください。割れや破損があれば交換してください。

重要

- 交換は必ずお買い上げの販売店または、営業所に依頼してください。

■ アンビルの点検

- 割れや破損はないか確認してください。割れや破損があれば必ず交換してください。
- 割れや破損した状態で使用しますと本機の故障の原因になります。
- 交換は必ずお買い上げの販売店または、営業所に依頼してください。



■ グリスの補充

- 稼動時間 約10時間毎に、約10gのグリスの補充を行ってください。
また、打撃力が弱まり杭の入りが悪くなった時にもグリスの補充を行ってください。

- ① 付属品のグリス補充器の押し子を外し、外筒にグリスを満タン注入します。

補足

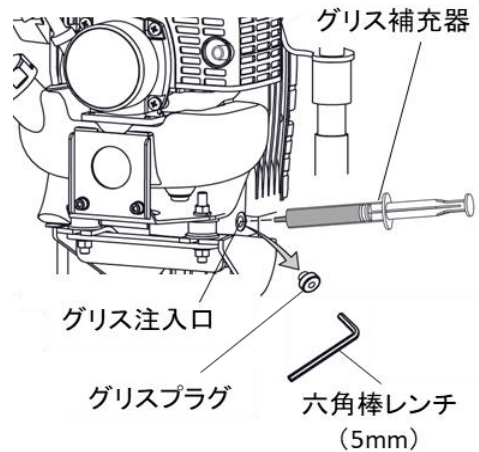
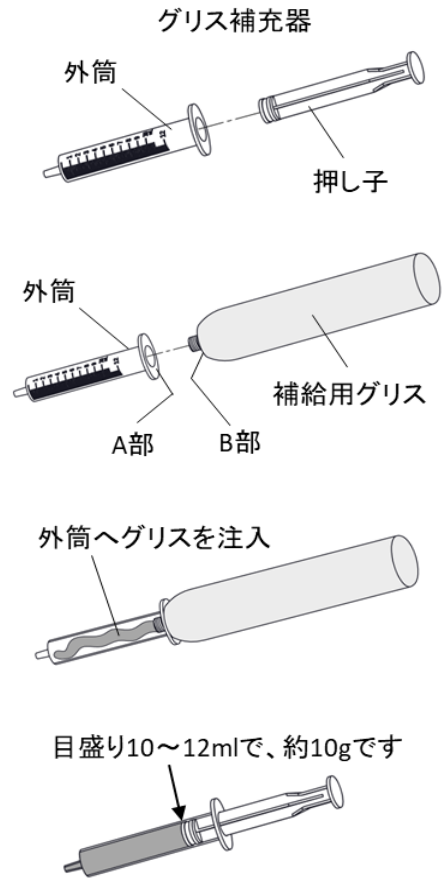
- 外筒のA部と補充用グリスのB部を密着させて、外筒へのグリスの注入を行ってください。
 - いきおいよく注入すると、グリス補充機の先端からグリスが漏れますので、ゆっくり注入してください。
- ② 外筒に押し子を刺し込み、ゆっくり押し子を押していき、外筒の中の空気を抜きます。外筒の目盛りで、10～12mlになれば約10gです。

補足

- いきおいよく押し子を押すと、グリス補充器の先端からグリスが漏れますので、ゆっくり押ししてください。
- ③ グリスプラグを六角棒レンチ(5mm) で取外してください。
 - ④ 約10g注入したグリス補充器を、本機のグリス注入口に刺し、グリスを補充してください。

重要

- グリスを多く補充しますと、グリスの抵抗で杭を打たなくなります。又、エンジンの故障に繋がります。
 - グリスは付属品の補充用グリスを必ずお使いください。
- ⑤ グリス注入後、グリスプラグを六角棒レンチ(5mm) で取付けてください。



■ エアクリーナの点検

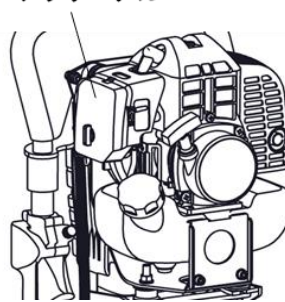
● エアクリーナの元素が汚れていると、エンジンの出力低下や始動不良を起こします。稼働時間20時間毎に必ず清掃を行ってください。また、ほこりの多い所で使用した場合は、1日1回清掃してください。

- ① カバー止めネジを回し、エアクリーナカバーを外してください。
- ② エアクリーナを取出し、ゴミや汚れを取除き白灯油で洗浄してください。
- ③ エアクリーナをしぼってから元の位置に取付けてください。
- ④ エアクリーナカバーを元の位置にはめ、カバー止めネジを確実に取付けてください。

▲ 注意

エアクリーナカバーや元素の無い状態で杭打作業をしないでください。エンジンの故障原因になります。

エアクリーナカバー



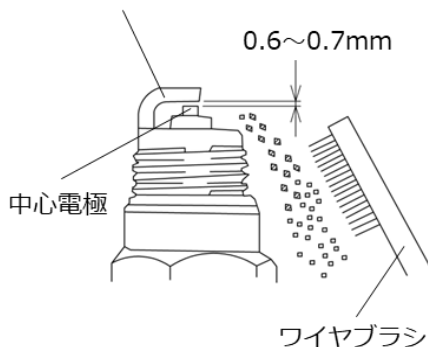
エアクリーナカバー



■ 点火プラグの点検

- ① 点火プラグの清掃は、稼働時間20時間毎に行ってください。
- ② 付属のプラグレンチを使用し、点火プラグを外してください。
- ③ 点火プラグの電極スキマは、0.6mm～0.7mm (ハガキ3枚程度)が正常です。広すぎたり狭すぎたりしている場合は調整してください。また、電極部にカーボン等が堆積している場合はワイヤブラシ等で清掃してください。
- ④ 中心電極や外側電極が焼けて丸く減っている場合は、点火プラグを交換してください。

外側電極



■ 燃料タンクの点検

- ① 燃料フィルタがつまると始動不良や加速不良の原因になります。稼働時間20時間毎に燃料フィルタを取出し、ゴミを取除き混合燃料で洗浄してください。汚れのひどいときは、燃料フィルタを交換してください。
- ② また、燃料タンク内にもゴミがあると燃料フィルタがつまりやすくなります。燃料タンク内のゴミを取除き、燃料タンクと燃料フィルタを混合燃料で洗浄してください。
- ③ 燃料フィルタの清掃、交換の後は、燃料フィルタが燃料タンク内で自由に動くように、燃料タンク内に押し込んでください。

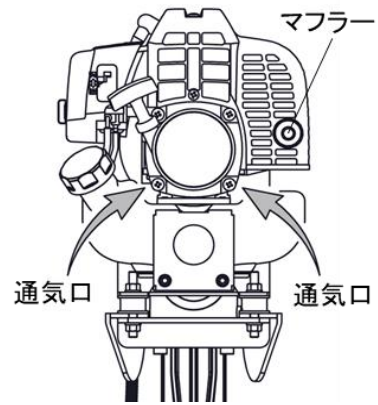
燃料タンク



※ 市販の針金を図のように曲げてご使用ください。

■ エンジン各部の清掃

- 通気口にゴミがつまっていると、エンジンの冷却不良が発生し、オーバーヒートの原因になります。使用前、使用後には草片、ゴミ、ほこりなどが付着していないか確認し、付着している場合は、清掃して取除いてください。
- マフラー内にカーボンが堆積すると、エンジンの出力低下を起こします。マフラー内部・シリンダ・ピストンのカーボン除去作業には、専門の技術および道具を必要とします。お買い上げの販売店に点検・整備をご依頼ください。



■ エンジン部品の点検・整備

- エンジン部品の点検・整備につきましては、別冊のエンジンの取扱説明書をご確認ください。

■ 点検項目


シリンダケース部	・締め付けボルトのゆるみ	・増し締め
	・割れ・破損	・交換(★)
	・グリス漏れ	・締め付けボルト増し締め
ギヤケース部	・締め付けボルトのゆるみ	・増し締め
	・割れ・破損	・交換(★)
	・グリス漏れ	・締め付けボルト増し締め
アンビル	・割れ・破損	・交換(★)
ガイドパイプ	・割れ・破損	・交換(★)
エンジンのストップスイッチ	・コードの抜け	・接続
	・コードの断線	・交換(★)
エンジン部	・取付けボルトのゆるみ	・増し締め
エアクリーナ	・目づまり	・清掃
冷却風の通路	・ほこりなどの付着	・清掃
燃料タンク	・傷による燃料漏れ	・交換(★)
	・取付けボルトのゆるみ	・増し締め
	・燃料タンクキャップからの燃料漏れ	・パッキン交換(☆)
	・燃料パイプに傷	・交換(★)
スイッチ部	・割れ・破損	・交換(★)
スロットルワイヤー	・動き不良	・交換(★)
	・遊び不良	・調整(★)

- 上記処置を講じても現象が改善しない場合や、上記以外の不調現象が生じた場合は、お買い上げの販売店または、営業所にご相談ください。
- ☆印の付いている処置につきましては、お買い上げの販売店または、営業所で純正部品をお求めください。
- ★印の付いている処置につきましては、お買い上げの販売店または、営業所に依頼して処置してください。

危険

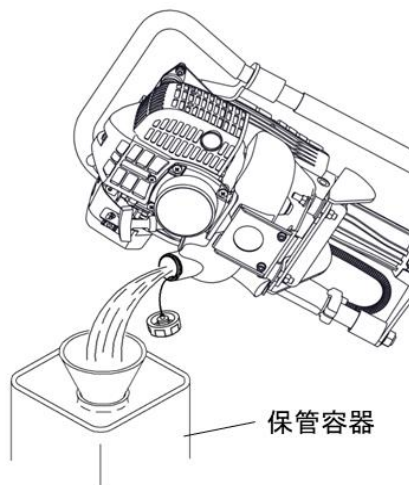
- 本機の改造や分解等はいしないでください。運転時に本機が破損したり、燃料漏れや作動不良による不測の事故を招く恐れがあります。
- 点検処置時はタバコなどの火気を遠ざけてください。燃料に引火する恐れがあります。
- 本機各部の締結部品(ボルト、ナット、ネジ類)は必ず純正部品または指定品を使用してください。規格外品を使用すると、使用中に機体が破損したり部品が脱落したりして不測の事故を招く恐れがあります。

■ 長期保管時の手入れ

危険 	引火による火災の恐れがあります。 <ul style="list-style-type: none">● 燃料を抜き取る時は、火気を遠ざけてください。● 燃料をこぼさないように注意し、こぼれた燃料は完全にふき取ってください。● 燃料の保管容器のキャップはしっかり締めてください。
重要	<ul style="list-style-type: none">● 燃料タンクに燃料を長期入れておくと、オイル分がキャブレタやフィルター内で変質し、目づまりによる始動不良など故障の原因になります。長期使用しない場合は燃料を必ず燃料タンクから抜き取ってください。● 保管時は、燃料タンクキャップをゆるめにしてください。強く締め過ぎると経時変化によりパッキンが変形することがあります。

【保管要領】

- ① 機体の汚れを落とし、各部の損傷やゆるみなどの有無を点検してください。
- ② 燃料タンクから燃料を抜き取ってください。
- ③ キャブレタの始動ポンプを燃料が出なくなるまで押して、配管通路内の燃料を燃料タンクに戻してください。
- ④ もう一度燃料タンクから燃料を抜き取ってください。
- ⑤ エンジンを始動し、自然に止まるまで運転してください。
- ⑥ 点火プラグを外し、2サイクルオイルを数滴エンジン内に注入してください。リコイルスタータを数回引いてから点火プラグを元通り取付け、圧縮のあるところで止めてください。
- ⑦ 金属部に防錆油を塗った後、チリやほこりの付かないようにして、湿気の少ない場所に保管してください。





本 社 〒651-2404 神戸市西区岩岡町古郷 1534
TEL 078(967)1481 FAX 078(967)3090

2023. 7 印刷